

# 足大付、粘れず完敗

男子  
1回戦

## 一関修紅に0-2

### スポーツ



昨年を超える8強以上へ挑んだ足利大付の戦いは、本来の力を見せることなく初戦で幕を閉じ

最大の誤算はサーブレシーブだった。硬軟織り交ぜた一関修紅(岩手)

## 変幻自在の攻撃不発

た。「やりたいことができなかった」。新井房巳監督は冷静に敗戦を受け止めた。

のサーブを拾い切れず、単調な攻撃が相手ブロックにつかまるとプレーがターで変幻自在に攻撃す

なかった。研究も相手が一枚上手だった。第2セット途中で2セッターから岩岡を攻撃に専念させる1人セッターに変更。状況の打開を試みたが岩岡が相手ブロックの徹底マ

るはずが、相手の狙い通りに封じ込まれた。昨年を経験した岩岡日向我は「大会や会場の独特の雰囲気」に慣れていた。リベロを含めた先発7人のうち2年生以下が3人。浮いたボールの位置を把握しにくい高い天井の影響もあり最後まで修正でき

た。研究も相手が一枚上手だった。第2セット途中で2セッターから岩岡を攻撃に専念させる1人セッターに変更。状況の打開を試みたが岩岡が相手ブロックの徹底マ

なかつた。研究も相手が一枚上手だった。第2セット途中で2セッターから岩岡を攻撃に専念させる1人セッターに変更。状況の打開を試みたが岩岡が相手ブロックの徹底マ

れやかな表情だった。足利大付・荒井瑛汰(ミドルブロッカー)として攻守両面で奮戦。「自らの経験を次に生かして」

さだとブロックに当たっていた。もっと自分で決めたかった。下級生は今回の経験を次に生かして

塚方知撮影

(星国典)